親と子がけんか？

時々生徒どうしの会話の中に，「ゆうべ親とけんかした」と言うのを聞くことがあります。私には何か違和感があるのでそのけんかの内容を聞いてみると，「宿題をした，しないで言い争った」とか「おこずかいの使い方を注意されたので正当性を主張した…が聞き入れてもらえなかった」とかのようです。

私の違和感というのは親と中学生の子がけんかをするという状況がイメージできないのです。たとえば上のような内容であればそれは「けんか」とは言いません。言い換えるとすれば，それは「親に注意された」，「親にお説教された」，「親にしかられた」，「親に怒られた」ということでしょう。百歩譲ったとしても「親と言い争った」でしょう。

親と中学生の子が「けんか」をすることはあり得ません。なぜなら「けんか」は双方の立場が対等であって起こるのであり，親と子は対等ではないからです。ただ，それに近い状況は確かにあります。それは「反抗」です。

ところが驚くことに，まれにですが保護者からも「子とけんかした」という言い方を聞くことがあります。中学生になったわが子の人格を認めて，一人前の人間として対等に扱いたいという気持ちは十分理解できます。しかし，親は中学生のわが子に対して対等である必要はありません。もし，わが子が親の望む姿から逸脱した時(親の思い通りという意味ではありません)，親はためらうことなくわが子を諫(いさ)めなければなりません。対等な親子関係の中で本当の親の厳しさを子に伝えられるかどうかいささか疑問です。

さて，親の権威を光らせてわが子にお説教をしたとしましょう。ところが，小学生のころとちがって思いもかけない論理をかざして中学生のわが子が親に反論してくるかもしれません。

そうしたら…どうしましょう。急に対等になりましょうか。

いえいえ，反論するわが子の成長を喜んで聞いてやりましょう。受け入れられるところは受け入れてやりましょう。でも受け入れられないところは断固拒否しましょう。

一晩中わが子と言い合ったとしても，それは「けんか」ではありません。